



公益社団法人 茨城県農林振興公社
穀物改良部
〒311-4203 水戸市上国井町3118-1
TEL 029-239-6300 FAX 029-239-6880
<https://www.ibanourin.or.jp>

1. 令和7年播種用麦類種子の確保状況について

(1) 小麦

小麦については一部で細麦傾向となり調製歩留が低下しましたが、各品種ともに全量合格種子で計画数量を確保しました。「きぬの波」、「ゆめかおり」については、注文数量の増加が見込まれたため種子の買増しを行い、必要数量を確保しました。

(2) 六条大麦

六条大麦については、連作障害による生育不良や細麦傾向による減収が見られ、「カシマゴール」

については計画数量未達となりました。「カシマムギ」については、全量合格種子で計画数量を確保しました。

(3) 二条大麦

二条大麦「ミカモゴールド」については、全量合格種子で計画数量を確保しました。

(4) 裸麦

裸麦「キラリモチ」については、外観品質および発芽率を満たした一般生産物を種子に転用して確保しました。

令和7年播種用麦類種子確保状況

品 種		委託数量 (kg)	買増数量 (kg)	合計 (kg)	確保数量 (kg)			
					合格	準	転用	合計
小 麦	さとのそら	270,000	0	270,000	270,060	0	0	270,060
	きぬの波	23,000	10,000	33,000	28,890	0	0	28,890
	ゆめかおり	21,000	1,020	22,020	22,020	0	0	22,020
六条大麦	カシマムギ	17,500	0	17,500	17,500	0	0	17,500
	カシマゴール	56,800	0	56,800	50,425	3,200	0	53,625
二条大麦	ミカモゴールド	57,000	0	57,000	57,000	0	0	57,000
裸 麦	キラリモチ	0	0	0	0	0	21,030	21,030
合 計		445,300	11,020	456,320	445,895	3,200	21,030	470,125



小麦「さとのそら」の採種圃場



六条大麦「カシマゴール」の採種圃場

も く じ

1. 令和7年播種用麦類種子の確保状況について 1
2. 令和7年産麦類をふり返って～気象の影響を中心に～ 2
3. プラスチックに頼らない水稻生産を目指して 4
4. 稲刈り後の「土づくり」を実践しましょう！
～「土づくり応援企画」および「秋肥特別キャンペーン」開催中！～ 6
5. がんばる種子生産者！（JAやさと採種部会） 7
6. 穀物改良部ニュース 8
 - (1) 令和7年度穀物改良事業推進会議・研修会を開催
 - (2) 水陸稲種子現地検討会を開催
 - (3) 令和7年度茨城県稲作・そば共進会の参加者募集

2. 令和7年産麦類をふり返って～気象の影響を中心に～

茨城県農業総合センター 主任専門技術指導員 寺門 ゆかり

近年、温暖化をはじめとする気候変動が農作物に与える影響が大きな問題となっています。夏の気温上昇が注目されがちですが、秋に播種し冬を越えて初夏に収穫を迎える「冬作物」の麦類でも気候変動の影響は大きく、作柄がとても不安定になっています。

そこで、令和7年産麦類の気象経過と収量品質への影響について振り返るとともに、安定生産のための栽培技術について復習しておきましょう。

1 気象の経過（龍ヶ崎市アメダスデータより）

【気温について（図1）】

播種から12月は平年差 -0.2°C とやや低く（特に11月下旬以降から低下）、1～2月は平年差 -0.3°C と平年並み、3～4月は平年差 $+0.1^{\circ}\text{C}$ と平年並み（4月第1半旬の低温以外はやや高め）、5月は平年差 -0.1°C と平年並みに推移しました。

特徴的な生育経過として、①11月上～中旬播種に比べて、11月下旬以降の播種では出芽及び初期生育に遅れが見られ、②4月第1半旬の低温によって、大麦の一部は場で不稔が確認されました。

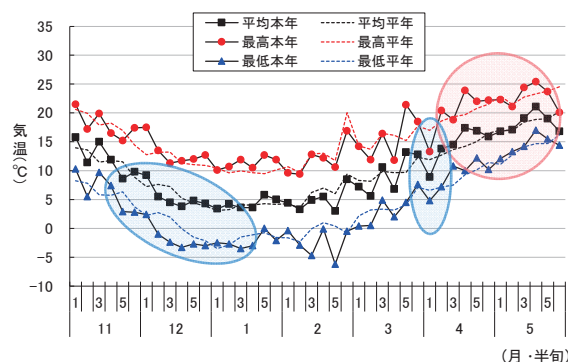


図1 半旬別最高・最低・平均気温の推移
注)水戸地方気象台龍ヶ崎観測所アメダスデータより作成

【降水量について（図2）】

播種から12月は平年比35%と少なく（12月の1か月積算降水量は0mm）、1～2月は平年比29%とかなり少なく、3～4月は平年比101%と平年並み、5月は平年比151%とかなり多く推移しました。

多くの麦類で出穂直後に当たる4月下旬～5月に高温多湿条件が続いたことにより、赤かび病の感染が散見されました。また、県病害虫防除所からは4/8に大麦、4/15に小麦の赤かび病の防除徹底を呼び掛ける「病害虫速報」を発行しました。

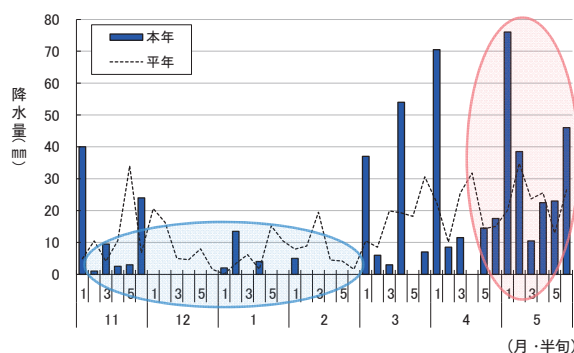


図2 半旬別降水量の推移
注)水戸地方気象台龍ヶ崎観測所アメダスデータより作成

2 生育および収量・品質（農業研究所水田利用研究室調査 麦類生育診断（表1）より）

播種直後からの低温と少雨の影響によって、全麦種で出芽・苗立ちまで時間がかかると共に、草丈・茎数等の生育量も平年より少なめに推移しました。その後も低温かつ少雨条件が続いたことで、平年より遅く茎立ち期や幼穂形成期を迎えましたが、出穂直前の3月下旬頃から高温傾向に転じたため、生育が一気に進みました。出穂期は小麦で平年差 $+3\sim+5$ 日、大麦で $-3\sim+1$ 日、成熟期は全麦種で $+2\sim+3$ 日となりました（大麦は倒伏によって登熟が遅延）。

全麦種で穂数が平年比104～161%と多く、大麦は子実粒数過剰によって整粒歩合が平年差 $-22\sim-11\%$ と大きく低下しました。なお、六条大麦では倒伏程度も3.0～4.0と大きくなったため、千粒重が大きく低下しました。一方、小麦では整粒歩合の低下は見られず、千粒重も平年比105～106%となりました。

結果、六条大麦以外の麦種は平年比110～114%のやや多収～多収、六条大麦は平年比89～97%の低収～

やや低収となりました。なお、タンパク質含有率は平年差−0.1〜+1.2%と、特に小麦でやや高めとなりました。

表1 輪換畑における麦類の生育及び収量・品質（龍ヶ崎市、水田利用研究室）

播種期 (月、日)	麦種	品種名	出穂期			成熟期			倒伏程度			稈長			穂長		
			本年値 (月、日)	平年値 (月、日)	平年差 (日)	本年値 (月、日)	平年値 (月、日)	平年差 (日)	本年値 (0-5)	平年値 (0-5)	平年差 (0-5)	本年値 (cm)	平年値 (cm)	平年比 (%)	本年値 (cm)	平年値 (cm)	平年比 (%)
11.14	小麦	さとのそら	4.12	4.7	5	5.30	5.27	3	0.0	0.0	0.0	89	84	106	8.6	8.5	101
	六条大麦	カシマムギ	4.1	4.1	0	5.16	5.13	3	4.0	1.9	2.1	82	81	101	3.6	4.2	86
		カシマゴール	3.27	3.30	-3	5.16	5.13	3	3.0	0.7	2.3	81	80	102	3.4	4.0	85
	二条大麦	ミカモゴールドデン	3.30	3.29	1	5.13	5.11	2	2.0	1.1	0.9	88	86	102	4.5	5.0	90
11.20	小麦	さとのそら	4.13	4.10	3	5.31	5.29	2	0.0	0.0	0.0	82	80	103	8.9	8.7	102
11.29	裸麦	キラリモチ	4.8	-	-	5.25	-	-	0.0	0.0	-	78	-	-	6.3	-	-

播種期 (月、日)	麦種	品種名	穂数			一穂整粒数			㎡当たり整粒数			整粒重			整粒歩合		
			本年値 (本/㎡)	平年値 (本/㎡)	平年比 (%)	本年値 (粒)	平年値 (粒)	平年比 (%)	本年値 (万粒)	平年値 (万粒)	平年比 (%)	本年値 (kg/a)	平年値 (kg/a)	平年比 (%)	本年値 (%)	平年値 (%)	平年差 (%)
11.14	小麦	さとのそら	803	714	112	21.3	21.9	97	1.71	1.56	110	67.5	58.7	115	98	94	4
	六条大麦	カシマムギ	853	531	161	16.6	29.5	56	1.41	1.45	97	42.9	46.6	92	60	82	-22
		カシマゴール	753	544	138	18.5	29.4	63	1.39	1.57	89	42.5	49.0	87	58	80	-22
	二条大麦	ミカモゴールドデン	997	642	155	8.6	11.8	73	0.85	0.75	113	35.8	31.6	113	68	79	-11
11.20	小麦	さとのそら	733	703	104	23.3	21.5	108	1.71	1.50	114	67.8	56.4	120	97	92	5
11.29	裸麦	キラリモチ	1343	-	-	11.1	-	-	1.49	-	-	58.3	-	-	90	-	-

播種期 (月、日)	麦種	品種名	千粒重			容積重			タンパク質含有率		
			本年値 (g)	平年値 (g)	平年比 (%)	本年値 (g/l)	平年値 (g/l)	平年比 (%)	本年値 (%)	平年値 (%)	平年差 (%)
11.14	小麦	さとのそら	39.5	37.6	105	849	822	103	9.7	8.5	1.2
	六条大麦	カシマムギ	30.4	32.1	95	688	703	98	8.0	7.6	0.4
		カシマゴール	30.5	31.2	98	723	712	102	7.7	7.0	0.7
	二条大麦	ミカモゴールドデン	42.2	42.2	100	737	721	102	7.0	7.1	-0.1
11.20	小麦	さとのそら	39.8	37.5	106	849	820	104	9.6	8.6	1.0
11.29	裸麦	キラリモチ	39.1	-	-	855	-	-	9.5	-	-

【耕種概要】

1) 圃場来歴：転換2年目（前作大豆）

2) 播種期：平年の播種期は11月10日、21日

3) 播種量：（小麦・六条）0.8kg/a、（二条）1.0kg/a

4) 播種機式：条間30cm、ドリル播き（シーダーテープによる）

5) 基肥：（小麦）N-P₂O₅-K₂O=1.0-1.5-1.3kg/a、（六条・二条）N-P₂O₅-K₂O=0.8-1.2-1.1kg/a

6) 麦踏み：2024年12月25日、2025年1月15日、1月30日（11/14播種）。2025年1月15日、1月30日、2月14日（11/20播種）。
2025年1月30日、2月14日（キラリモチ）に実施。

7)基立期追肥：六条大麦は2025年3月3日、小麦は3月14日、裸麦は3月18日に施用。二条大麦は未施用。

【注釈】

1) 登熟日数は出穂期の翌日から成熟期までの日数、倒伏程度は0(無)～5(甚)の6段階とした。

2) 大麦の成熟期の生育は5月9日調査、倒伏程度は5月11日調査、小麦の生育は5月22日調査、倒伏程度は5月24日調査

3) 一穂整粒数・㎡当たり整粒数は、穂数・整粒重・千粒重から求めた計算値。

4) サンプル調製は小麦:2.3mm、六条:2.2mm、裸麦:2.2mm、二条:2.5mmのグレーダーによる。

5) タンパク質含有率は近赤外分析(インフラテック1241型)により、水分13.5%換算値とした。

【平年値】

2019年～2023年播種の5ヵ年の平均値。

キラリモチは出芽不良により再度11/29に播種を行ったため参考値。

3 今後の安定生産に向けて～基本技術の励行が重要～

麦類生産において、生育期間全体を通じての高温化や春先の降霜および台風等の不安定な気象は、今後高頻度で起こる「生産環境の変化」として捉え、栽培管理技術を見直していく必要があります。

まだまだ知見は足りませんが、安定した収量品質を得るために重要となるのは、播種直後から出穂期までの「バランスのとれた生育量の制御」です。湿害や播き遅れ等による生育不足は論外ですが、生育初期からの過剰な生育も、高温下で登熟期間を迎えることによる赤かび病等への感染や「子実の充実不足＝くず麦の多発」リスクを高めることになります。

麦類生産者の1戸当たり作付面積の拡大に伴い、全ほ場での徹底は難しくなりつつあるとは思いますが、①排水対策と土壌診断・品質分析結果に基づく適正施肥、②適切な播種（播種時期、播種量、播種深度）、③効果的な雑草および病害虫の防除、④適期収穫と適正な乾燥調製の実施といった、基本技術の励行をまずは心がけましょう。

3. プラスチックに頼らない水稻生産を目指して

茨城県農業総合センター農業研究所 環境・土壌研究室 榎本 亘 泰

● 農業生産においても脱プラスチックが求められています

2015年に国連で「持続可能な開発目標 (SDGs)」に海洋プラスチックの削減が掲げられたことにより、国内外において脱プラスチックの流れが加速しました。これを受けて、肥料関連団体は脱プラスチックを目標に代替技術を模索しています。現在、代替技術にはプラスチックを使用しない化学合成緩効肥料を用いた栽培方法の他、新たな機械の開発による施肥方法の改良などが行われています。

このような情勢を踏まえ、農業研究所では水稻生産における脱プラスチックに向けた試験研究に取り組んでいます。その中から、令和5年度の主要成果である「プラスチック被膜殻を排出しない緩効性混合堆肥複合肥料」と「ペースト二段施肥」について紹介します。

● プラスチック被膜殻を排出しない緩効性混合堆肥複合肥料について

緩効性混合堆肥複合肥料（以下、緩効性混堆）は、混合堆肥複合肥料にウレアホルムが配合されており、プラスチックは使われていません。ウレアホルムは肥効が長く被覆肥料の代替技術として期待されています。そこで、本研究所では、「コシヒカリ」への収量・品質に及ぼす影響を明らかにするために試験を行いました。

試験は所内（茨城県水戸市）、及び現地（水戸市及び桜川市）で、令和4年から令和5年の2年実施しました。プラスチック被覆の慣行肥料を対照肥料として用いました。緩効性混堆の「コシヒカリ」の葉色は、移植後70日頃まで慣行肥料と同程度に推移しました（図1）。一方、出穂期以降は慣行肥料を用いた場合よりも葉色が薄くなり、登熟期の肥効が小さいことが示唆されました。また、緩効性混堆を用いた場合の「コシヒカリ」は、

千粒重及び玄米粗タンパク質含有量は慣行肥料を用いた場合よりやや低下するものの、穂数が多い傾向だったため、精玄米重は同等でした（表1）。

これらの結果から、基肥に緩効性混堆を用いても、慣行肥料と同等の収量、品質を確保できることが明らかになりました。

● ペースト二段施肥について

ペースト二段施肥技術は、田植えと同時にペースト肥料を地表近くと地表から深さ9～15cmの上下段に側条施肥する技術で、前述の緩効性混堆同様に被覆肥料の代替技術として期待されています。ペースト二段施肥技術では、施肥位置の変更の他、施肥窒素量の上下段の配分比率を変えることができます。そこで、本研究所では、ペースト二段施肥における施肥窒素量の最適な上下段比率を明らかにするための試験を行いました。

試験は所内（茨城県水戸市）及び現地（河内町）で、令和4年から令和5年の2年実施しました。プラスチック被覆の慣行肥料を側条施肥した区を対照区として設け、ペースト二段施肥区と比較しました。ペースト二段施肥区の窒素吸収量は、いずれの区も出穂期まで、対照区よりも多く推移したことから、ペースト二段施肥は上下の窒素量に関わらず、慣行肥料よりも生育前半の肥効が大きいと考えられました（表2）。そのため、いずれのペースト二段施肥区の稈長は、対照区より長くなる傾向がみられました（表3）。

また、ペースト二段施肥を用いた精玄米重は、「コシヒカリ」では、いずれのペースト二段施肥区においても対照区よりやや多い～同等となり、特に施肥窒素量の比率が上：下＝1：1区が最も多くなりました。「にじのきらめき」では、施肥窒素量の上下段比率が高まるにつれて、精玄米重が多くなる傾向があり、上：下＝1：2区の精玄米重がペースト二段施肥区の中で最も多く、対照区と同等でした。一方、ペースト二段施肥を用いた場合の千粒重や整粒歩合は対照区より同等～やや低下する傾向でした（表3）。

これらの結果から、ペースト二段施肥を用いるとプラスチック被覆肥料と比較して、品質がやや低下する傾向があったものの、施肥窒素量の上下段比率を多くすることで、精玄米重がやや多い～同等になる傾向がみられました。また、この結果を踏まえ、現在ペースト二段施肥については上下の比率を1：4にするなどして、試験を継続しています。

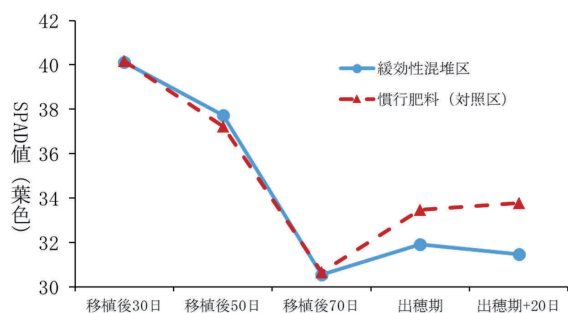


図1 「コシヒカリ」の葉色の推移 (R4～R5)
※農研所内、水戸市、桜川市で得られたデータの平均値

参考

・国際連合.”海の豊かさを守ろう”. 国際連合広報センターホームページ.
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/sustainable_development_goals/oceans/ , (参照 2025/8/20)

- ・全国農業協同組合連合会、全国複合肥料工業会、日本肥料アンモニア協会、「緩効性肥料におけるプラスチック被膜殻の海洋流出防止に向けた取組方針」
- ・片倉コープアグリ株式会社”ペースト2段施肥”. 片倉コープアグリホームページ

● プラスチック被膜殻を排出しない緩効性混合堆肥複合肥料についての図表

表1 緩効性混堆を用いた「コシヒカリ」の収量及び品質 (R4~R5)

試験地	供試肥料	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	登熟 日数 (日)	倒伏 程度 (0-5)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	精玄米重 (kg/10a)	同左 対標比	千粒重 (g)	玄米粗 タンパク質 含有量 (%)	整粒 歩合 (%)	成熟期窒 素吸収量 (kg/10a)
農研 所内	緩効性混堆	7月30日	9月8日	40	1.3	87	18.7	360	547	94	22.5	6.38	63.9	9.1
	全量基肥 (対照)				1.4	88	19.7	340	580	100	22.7	6.58	67.5	10.4
水戸市 田谷町	緩効性混堆	8月1日	9月10日	40	1.9	92	18.1	409	584	96	22.0	6.48	69.4	10.1
	全量基肥 (対照)				2.0	93	18.2	430	606	100	22.0	6.70	70.1	10.9
桜川市 高久	緩効性混堆	7月26日	9月3日	39	1.9	97	19.1	354	604	104	21.6	6.78	54.0	10.2
	全量基肥 (対照)				1.7	92	19.9	328	579	100	21.9	6.83	57.5	9.7
平均	緩効性混堆	-	-	-	1.7	92	18.6	374	578	98	22.0	6.54	62.4	9.8
	全量基肥 (対照)	-	-	-	1.7	91	19.3	366	589	100	22.2	6.70	65.0	10.3
有意差 ¹⁾	-	-	-	-	n.s	n.s	n.s	n.s	n.s	-	*	**	*	n.s

1) t 検定、* : 5%水準で有意、** : 1%水準で有意

※施肥窒素量は、6.4kg/10a (所内)、5.0kg/10a (水戸市)、6.2kg/10a (桜川市)

※施肥日は、農研所内 : 5/6 (R4)、5/1 (R5)、水戸市田谷町 : 4/28 (R4)、4/28 (R5)、桜川市高久 : 4/13 (R4)、4/20 (R5)、全て全面全層施肥により実施

※移植日は、農研所内 : 5/13 (R4)、5/12 (R5)、水戸市田谷町 : 5/9 (R4)、5/8 (R5)、桜川市高久 : 4/28 (R4)、5/10 (R5)

※緩効性混堆 (新マトリックス有機356) (N:P2O5:K2O=13 : 5 : 6(%)) (A社製)、対照肥料としてプラスチック被覆慣行肥料 (コシ一発かんだ君) (N:P2O5:K2O=15 : 15 : 15(%)) (J社製) を供試し、全面全層施肥により得られた結果である。

● ペースト二段施肥についての図表

表2 ペースト上下段比率を変更した場合の窒素吸収量 (kg/10a) (R4~R5)

試験地	品種	試験区	移植後日数			出穂期	成熟期			施肥窒素 利用率 (%)
			30日頃	50日頃	70日頃		茎葉	子実	合計	
農研 所内	コシ ヒカリ	ペースト上:下=2:1区	1.7	7.1	8.5	10.4	4.5	6.1	10.6	54.7
		ペースト上:下=1:1区	1.6	5.9	8.8	10.1	4.7	6.5	11.2	62.8
		ペースト上:下=1:2区	1.4	6.7	9.2	9.1	4.2	6.4	10.6	53.5
		慣行肥料側条 (対照区)	1.5	4.0	6.6	7.2	4.8	6.3	11.1	61.5
農研 所内	にじの きらめき	ペースト上:下=2:1区	1.7	8.6	10.5	11.1	5.6	6.7	12.4	65.2
		ペースト上:下=1:1区	1.8	8.4	10.1	13.4	6.0	6.8	12.8	70.0
		ペースト上:下=1:2区	1.4	8.7	10.2	11.8	5.7	7.0	12.7	68.5
		慣行肥料側条 (対照区)	1.6	6.8	8.4	9.9	5.2	6.8	12.1	61.7

表3 ペースト上下段比率を変更した場合の収量品質 (R4~R5)

試験地	品種	試験区	倒伏 程度 (0-5)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	精玄米重 (kg/10a)	同左 対標比	千粒重 (g)	玄米粗 タンパク質 含有量 (%)	整粒 歩合 (%)	一穂 粉数 (粒)	㎡当たり 粉数 (百粒/㎡)	登熟 歩合 (%)
農研 所内	コシ ヒカリ	ペースト上:下=2:1区	2.2	95.8	18.4	454	603	102	22.0	6.4	65.5	79.2	360	86.7
		ペースト上:下=1:1区	2.1	98.5	18.6	450	626	105	21.8	6.5	65.1	76.8	345	86.9
		ペースト上:下=1:2区	2.1	97.2	18.5	422	613	103	21.9	6.3	63.2	76.1	321	88.1
		慣行肥料側条 (対照区)	1.6	89.1	19.4	376	594	100	22.4	6.6	71.6	78.9	297	88.6
農研 所内	にじの きらめき	ペースト上:下=2:1区	0.1	76.1	19.2	477	720	99	24.0	6.3	71.2	74.8	356	88.5
		ペースト上:下=1:1区	0.0	74.8	19.3	479	727	100	23.9	6.3	72.0	74.0	354	85.8
		ペースト上:下=1:2区	0.0	75.2	19.0	451	735	101	23.8	6.3	69.6	77.5	349	88.9
		慣行肥料側条 (対照区)	0.0	71.9	20.1	438	726	100	24.2	6.2	71.8	75.8	332	88.6
河内町 十三間戸	にじの きらめき	ペースト上:下=2:2区	0.6	80.2	20.9	489	651	98	21.9	7.1	57.8	88.0	431	66.9
		ペースト上:下=1:1区	0.8	81.0	21.0	526	645	97	21.6	7.3	55.2	82.6	434	62.5
		ペースト上:下=1:2区	0.7	80.6	20.7	492	660	99	21.6	7.1	56.7	82.8	408	70.7
		慣行肥料側条 (対照区)	0.4	76.5	21.1	445	664	100	23.1	6.9	63.6	79.5	354	77.6

※施肥窒素量 (kg/10a) は、上下2:1=4.7:2.1、上下1:1=3.3:3.5、上下1:2=2.1 : 4.7、慣行肥料側条=6.8 (R4コシヒカリ)、上下2:1=6.3:3.0、上下1:1=4.7:4.7、上下1:2=3.2 : 6.2、慣行肥料側条=9.3 (R4にじのきらめき)、上下2:1=4.4:2.6、上下1:1=3.5:3.5、上下1:2=2.4 : 4.7、慣行肥料側条=7.0 (R5コシヒカリ)、上下2:1=6.3:3.5、上下1:1=5.1:4.7、上下1:2=3.7 : 6.2、慣行肥料側条=9.8 (R5にじのきらめき)

※用いたペースト肥料は、ネオペーストSR502 (N:P2O5:K2O=15 : 10 : 12 (%)) (K社製)、対照の粒状一発肥料は、コシ一発かんだ君 (N:P2O5:K2O=15 : 15 : 15 (%)) (K社製) (コシヒカリに使用)、ゆめひたち専用一発 (N:P2O5:K2O=18 : 20 : 12 (%)) (K社製) (にじのきらめきに使用)

※ペースト二段施肥の施肥位置は、上段5cm、下段15cmで実施

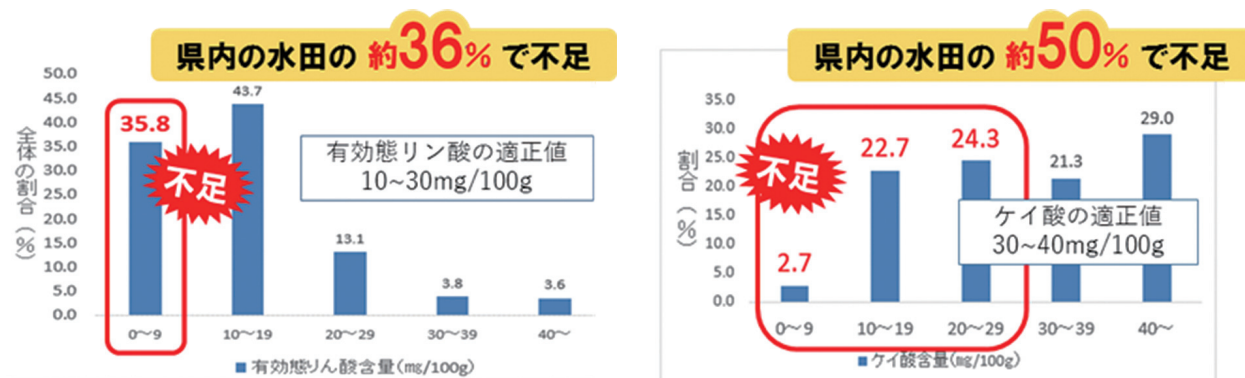
※移植時期は、所内大区画 : 5/9 (R4)、5/8 (R5)、河内町十三間戸 : 5/18 (R4)、5/17 (R5)

4. 稲刈り後の「土づくり」を実践しましょう！ ～「土づくり応援企画」および「秋肥特別キャンペーン」開催中！～

全農茨城県本部 生産資材部 肥料農薬課

J Aグループ茨城では、秋肥期間中（6月～10月）限定で、土づくりに有効な「土づくり資材」※¹を通常よりお得な価格で提供する「土づくり応援企画」を開催しております。近年の肥料価格高騰、大規模化による作業の簡素化などの影響により、県内では「土づくり」が後回しとなっている事例が見られます。また、コスト低減策の一環として、リン酸や加里成分の低い肥料を継続的に使用するケースも増えており、土壌の地力は徐々に消耗しています。県内約400か所の水田で実施した土壌診断の結果、水稻で必要不可欠な成分であるリン酸とケイ酸は、適正値と比較してそれぞれ約36%、約50%不足していることが判明しました。

これらのことから、「土づくり資材」の施用は収量アップや高温対策などの品質向上にも大変有効であると考えられます。



「土づくり」を見直す機会として、また圃場への貯金としての「土づくり資材」施用に、この取り組みをぜひご活用ください。なお、水稻向けだけに限らず、園芸作物向けの資材も取り揃えております。

また、J Aで選定した肥料※²を50袋購入以上したお客様を対象に、購入数量に応じて刈払い機用チップソーやローズポーク、バッテリー式噴霧器などを進呈する「秋肥特別キャンペーン」を同時開催しております。生産資材費が高止まっている今、農業者の皆様が肥料をお得に購入できる応援キャンペーンですので、こちらもぜひご活用ください。

※1、※2 取扱銘柄等についてはお近くのJ Aまでお問い合わせください。

今年も開催中!!

秋肥期間限定の特別企画!!

ぜひこの機会にJAで肥料をお買い求めください。

土づくり 応援企画

近年、夏場の高温化・地力の低下などにより、品質の低下や収量の減少が顕著になっています。ぜひ、この機会に「土づくり」を見直してみませんか？

秋肥期間中のみ、対象の土づくり資材を **値引き価格** にてご提供!!

◆対象銘柄 ※値引価格および取扱銘柄については各JAまでお問い合わせください。

1 石灰窒素 (粒)

2 稲コンポー番

3 稲サボ

4 BBどかいーね

5 良作シカ

6 ワラ分解キング

7 ネバリン

8 畑のカルシウム

9 ストロングバランス

秋肥 特別キャンペーン

資材費の高騰が続くなか、農業者の皆さまへ向けて、特別キャンペーンを開催します！

J Aで選定した **3銘柄50袋購入** につき **もらってうれしい! 各種商品を進呈します!**

※対象銘柄については各JAまでお問い合わせください。
※購入数量によって送る商品は異なります。

お問い合わせはお近くのJAまで

5. がんばる種子生産者！



やさと農業協同組合 採種部会
関 勝之さん

◆ 経営規模

・ 水稻	7 ha
・ 水稻種子（コシヒカリ）	3 ha
・ 麦種子（カシマゴール）	4.5ha

◆ 主な保有機械

・ コンバイン（5条）	1台
・ 乾燥機	3台
・ トラクター	2台
・ 田植機（7条）	1台
・ 糞摺り機	1台
・ フォークリフト	1台

◆ 品質向上の取組

新たな農薬・資材や新しい技術も積極的に取り入れ、品質向上に努めています。

部会員やJ A、普及センターと栽培技術や使用資材について情報交換を行い、優良な種子生産ができるように取り組んでいます。

◆ 栽培管理

種子の品質向上のために徹底した適期防除を行っています。

麦種子は、赤カビ等の病気の発生を防ぐために最低2回の防除を行い、水稻種子は、稲こうじ病、いもち病、カメムシ類の防除のため最低4回の本田防除を行っています。

また、異株や漏生稲の除去のために何度も圃場に入り、高品質な種子生産に努めています。

◆ 今後の抱負

高齢化による部会員の減少、異常な高温など種子生産を取り巻く状況は厳しくなっております。

今後も優良な種子を安定的に生産できるよう、講習会等に積極的に参加し生産技術の向上、J Aや普及センター、関係機関との情報交換をして優良種子生産に取り組んでいきたいと考えております。



トラクター



トラクター

6. 穀物改良部ニュース

(1) 令和7年度穀物改良事業推進会議・研修会を開催

6月25日(水)、水戸市下国井町のJ Aグループ茨城教育センターにおいて、茨城県農林振興公社「令和7年度穀物改良事業推進会議・研修会」が、農業協同組合及び市町村穀物改良協会、県関係機関・団体等の関係者が出席し、開催されました。

会議では、当公社より令和7年度における穀物改良事業計画の概要及び麦類種子更新計画を、県産地振興課より令和7年度茨城県畑作振興対策及び第69回稲作共進会・第36回そば共進会開催の説明を行いました。

研修会では、関東農政局茨城県拠点地方参事官室・主任農政業務管理官の立川文男氏を講師に迎

え、「令和7年産に向けた水田農業の取組方針」と題して、国の施策や主食米等の需給状況について動画や図表等を用いて説明して頂きました。



(2) 水陸稲種子現地検討会を開催

8月7日(木)、茨城県採種部会協議会(会長：谷田部貞雄氏)主催の令和7年度水陸稲種子現地検討会が、J A常陸種子生産部会大宮支部の協力の下、県内水陸稲採種関係者26名が参加し、開催されました。

現地では、J A常陸種子生産部会大宮支部が生産する「コシヒカリ」の採種圃場を視察し、

J A担当者より使用資材や薬剤、管理内容の説明を受けた後、栽培技術等の情報交換が行われました。

その後、J A常陸大宮営農経済センターへ移動し、協友アグリ株式会社の雨宮主任による水稲の漏生苗対策に関する講習を受け、漏生苗の薬剤防除技術について学びました。



(3) 令和7年度茨城県稲作・そば共進会の参加者募集

令和7年度の「稲作共進会」、「そば共進会」の参加申込が始まりました。

各共進会への参加方法等については、当公社(穀物改良部)ホームページ[<https://www.ibanourin.or.jp/kokumotsu/>]の開催要綱をご覧頂くか、穀物改良部(電話029-239-6300)へお問い合わせください。

多くの方のご参加をお待ちしております。

〈ホームページ用QRコード〉



〈参加申込期間〉

稲作共進会 : 9月下旬～10月10日
そば共進会 : 9月1日～10月31日